



2026年3月17日

各 位

会社名 株式会社ビーアンドピー  
住 所 大阪市西区江戸堀二丁目6番33号  
代表者名 代表取締役社長執行役員 和田山 朋弥  
(コード番号：7804、東証スタンダード市場)  
問合せ先 経営管理部部長 近藤 恵太  
(TEL. 06-6448-1801)

### 2026年10月期 第1四半期決算発表 質疑応答集

当社の2026年10月期 第1四半期決算に関して、株主や投資家などの方々からいただいたお問い合わせや感想について、当社からの回答を以下の通りお知らせいたします。なお、本開示は市場参加者のご理解を一層深めることを目的に当社が自主的に実施するものです。決算内容の詳細については、2026年3月9日に開示しております決算短信および決算説明資料をご覧ください。

**質問1：2025年10月期は大阪・関西万博関連の特需があったようですが、第2四半期以降も反動が続くのでしょうか。**

2025年10月期は大阪・関西万博の開催やインバウンド需要などにより国内企業の販売促進活動が活発化し、主としてインクジェットプリントの取引が拡大したことで売上が伸びました。

2026年10月期第1四半期においては、大阪・関西万博の反動や物価高等を背景とした需要動向の不透明さから、一部の国内企業において販売促進活動を一時的に抑制する動きが見られましたが、2月後半から案件数が増加し、第1四半期からずれ込んでいた案件の再開に加え、イベント・展示会関連の引き合いが活発化しておりますので、第2四半期以降は需要が回復するものと考えております。

**質問2：営業利益率が前年同期 -6.4pt と減少していますが、最大の要因と改善の見通しについて教えてください。**

2026年10月期第1四半期の営業利益率が前年同期と比較して減少した最大の要因は、当社単体が前年同期比で減収になったためです。当社の原価・経費の大部分は労務費、地代家賃、減価償却費等の固定費であり、売上の増減に関わらず每期一定の金額が発生します。このため、売上が伸びると営業利益率は上昇し、減収になると営業利益率は減少します。第1四半期は大阪・関西万博の反動や物価高等を背景とした需要動向の不透明さから一部の国内企業において販売促進活動を一時的に抑制する動きが見られ、主力のインクジェットプリントが減収となりましたが、第2四半期に入って需要が回復しており、比較的利益率が高いインクジェットプリントの売上が伸びることで営業利益率は改善する見通しです。

**質問3：オーダーグッズ等のグロース領域による売上貢献が進んでいるとのことですが、成長率としてはどの程度伸長しているのでしょうか。また、利益貢献についてはいかがでしょうか。**

オーダーグッズ、プリントソリューション、デジタルクリエイトのグロース領域の売上高は、連結売上高の10%弱ですが、前年同期比で約50%増収となっており、着実に成長しております。また、売上の伸長に伴って黒字幅も拡大しており、グループ全体の利益を押し上げております。

**質問4：ポテンシャル領域のパッケージソリューションについては、いつ頃から収益回収のフェーズになる想定でしょうか。また、当事業について今後大きな投資は発生しない認識でしょうか。**

パッケージソリューションについては、これまでの新規事業と同様、3年程度で収益回収のフェーズになるものと想定しておりますが、既存事業との親和性が高く、小ロット・高品質の強みがお客様に浸透すれば、より早いスピードで成長する可能性があります。なお、当事業については、当社の既存の技術・ノウハウと協力会社とのネットワークを活かして拡大していく予定であり、今後大きな投資は発生しない見込です。

**質問5：通期業績予想に変更はありますか。**

現時点において、2025年12月9日に公表した通期業績予想に変更はありません。第1四半期は大阪・関西万博関連需要の反動等の影響がありましたが、第2四半期に入って案件数は増加しており、引き続き事業環境を注視しながら計画達成に向けて取り組んでまいります。

以上